



令和4年度 第7号
常磐野小学校 校長室だより
令和4年12月12日発行 文責 清川 秀一



「人権月間によせて」

東門を出たところの道では、山茶花（サザンカ）の赤い花が子どもたちを迎えてくれています。寒い季節で花が少ない中、きれいに凛と咲いているのが特徴的な山茶花。私は当初「椿（ツバキ）」だと思い込んでいましたが、「サザンカ」の表示がありましたので、少し調べてみました。山茶花は大きく分けて3つの種類がありました。サザンカ群に分類されるもの、カンツバキ群に分類されるもの、サザンカ群とカンツバキ群の山茶花が自然交配をして生まれたもの、があるようです。大変よく似ていて、一見して見分けがつきません。山茶花は葉がギザギザしていて、少し甘い匂いがするのも特徴のようです。一番見分けやすいのは花が落ちるときに、一枚ずつヒラヒラと花が散るのが山茶花で、花ごとぼとりと落ちるのが椿だそうです。また、山茶花には「困難に打ち克つ」「ひたむきさ」という花言葉がつけられています。違いはあっても、どちらの花も冬を代表する美しい花ですね。



さて、12月は人権月間ということで、オンラインによる人権集会を先日行いました。校長からの話では「たった さんびきだけの いけ」という本を読みました。一つの池におたまじゃくし、さかな、かめの三匹がいて、おたまじゃくしはさかなとだけ仲良くしたり、かめとだけ仲良くしたり、順番に仲間外れにするというお話です。最後には三匹が助け合い、仲良く暮らすのですが、自分と同じ方とは仲良くし、違う方は仲良くしないということについて、児童に考えてもらいました。また、6年生の社会科では明治時代以降の学習を行っていますが、明治維新によって日本が大きく「文明開化」という大きな変化があったことを学習しました。授業の中で、児童は欧米の文化が入ってきて世の中が大きくかわり、江戸時代の身分制度はなくなつたけれど、人々の中では差別がなくならなかったことを知りました。江戸時代は遠い昔に感じますが、長い歴史から見るとまだ150年と少し（平均寿命の2人分くらい）しか経過していません。

2022年があと少しで終わろうとしています。今年世界では戦争という最大の人権侵害が起きています。世界中が心を痛めていることですが、子どもたちには歴史を学び、今起きていることを知り、自分たちの周りについて考えることが必要です。12月だけに限らず、日々人権について考え、学ぶことで、子どもたちの毎日がより良いものとなり、子どもたちの幸せにつながります。未来の世の中が、人権がまもられる世の中になるよう願いつつ、教育を進めていきたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には1年間本校教育にご理解、ご協力を頂き、大変感謝いたします。

2023年も子どもたちや皆様にとって良い年となることを願います。